

210 番教室開所式における挨拶

平成 14 年 4 月 22 日
共通教育主管 奥田一雄

◎このたび新しく生まれ変わった共通教育 210 番教室の開所に際し、ご挨拶を申し上げます。

◎これからの知識社会の構築のために、大学の役割は益々大きくなり、昨今は、政官財の各方面から大学に対して熱い期待が次々に寄せられてきております。

◎申すまでもなく、大学は教員、事務の方々、学生の 3 者から構成されています。

◎大学が社会に貢献していくためには、これら 3 者が一体となって質の高い教育と高度の研究を目指して行かなければなりません。

◎また、それだけではなく、大学は、そのような教育研究を通して学生自身が学び、社会で立派に活躍できる人材として学生自身が育っていく場所・拠点でもあります。

◎大学が元気になること、すなわち、学生諸君が大学のキャンパスで自由にのびのびと自主的に活動して自らを磨くことこそが、これからの大学の存在と発展には不可欠です。

◎高知大学は学生が中心となるキャンパスづくりを目指します。

◎いままでの 210 番教室は、教員でさえここで授業をしたくないというほど、老朽化が進んでおりました。

◎このたび、学生が中心となるキャンパスづくりという高知大学の意志の表現として、学生支援を目的の 1 つに掲げて 210 番教室を改修いたしました。

◎それは、この教室を多目的ホール化することです。

◎通常の講義や、講演会、シンポジウムのためだけではなく、演劇や演奏会、映画の上映会など学生諸君が行う課外活動にも広く開放して使用できる設備を揃えました。

◎学生諸君はこの教室と設備を大いに活用し、生きいきとした学園生活のなかで自分自身、またはお互いを高め、高知大学をさらに元気にし、発展させていただけるように望みます。

◎最後に、210 番教室の改修にあたってこられた関係諸氏、および本日の開所式に協力してくれた学生諸君に感謝申し上げ、挨拶を終わらせていただきます。